

宇都宮商業會議所月報

第百貳拾號

稟告

一 商工業の進歩發達を促すべき事實又は法律命令
其他商業の發達を阻害する事情あらは速に其狀
況并に之に對する御意見等御一報あらんことを
望む

一 商工業に關し獎勵すべき習慣若くは矯正すべき
弊習等御認めの場合には細大となく御報知あらん
ことを望む

一 地區内商工業組合の組織に關しては當所は出來
一得る限り斡旋盡力すへし若し之れか組織の必要
を認められたる場合は申出られたし

一 地區内商工業組合にして總會又は役員會々場に
充つる爲め會議室の使用を望まると向に對して
は無料にて貸與し且つ當所の事務に支障を來さ
ざる限り其事務をも補助すへし

一 地區内商工業者各位にして商工業に關する事項
に付諸官廳其他に對し本會議所の照會又は紹介
を得んことを望まると場合は遠慮なく申出られ
たし

一 本會議所は商工業者各位の時々來所高見を演述
調査研究の資料を供給せらるゝを切望す

一 本會議所には官報、通商彙纂、商標公報、特許
公報、實用新案公報、山林公報、各地商業會議
所報告書其他商工業に關する各種統計及諸般の
有益なる圖書備付あり商工業者各位の隨時來所
閱覽あらんことを望む

宇都宮商業會議所



株式 安田銀行
會社 宇都宮支店
(電話百五十番)

一、資本金 壹千万圓 (全額拂込済)
宇都宮市大工町四十八番地

一、本店所在地 日本橋區小舟町三丁目九番地
一、支店出張所 貳拾壹ヶ所
一、各地送金 無手数料

大谷石材販賣

宇都宮市川向町停車場前
大谷石商會



石材 坂本 仲
問屋 (電話四八〇番)

光力電燈より光強し
アセチリン瓦斯 (石油ニ優
ル事百倍
に光料カーバイト 危険ノ虞
其他機具一式 毫モナシ
一注文ニ應ジ取付其他点燈迄一切請負可申候御
御報次第店員出張萬事御協議可申候

圓万百貳金本資



株式 下野銀行
會社

東京支店 東京市日本橋區横山町二丁目
電話一五〇〇番
日光支店 下野國日光町
電話二〇〇番
下野國宇都宮市大工町
電話二一三番
眞岡支店 下野國眞岡町
電話一一一〇番
新石町支店 宇都宮市新石町
電話四三一〇番



株式 宇都宮銀行
會社

材木町支店 宇都宮市材木町
電話四五〇番
足尾支店 下野國足尾町
電話一一二番
足尾出張所 下野國足尾町
電話八八番
電話(一三三番)
電話(六〇〇番)

●諸貸附、割引、爲替、荷爲替、代金取立
●總々精々御便利ニ取扱可申候

行發回一月毎	定價部金五圓	郵費部金五圓	印刷人 荒川 義典
廣告料廿二字詰	一行金十錢	〇特	發行所 宇都宮市旭町一丁目
〇六ヶ月以上特	約ハ一行金八錢		宇都宮商業會議所
			印刷所 宇都宮一保町廿七番地
			電話二五五
			印刷所 宇都宮三共社印刷所
			電話三六五

商品の仕入れ方について

田城寺 良

一 商品販賣の利益は仕入の時既に其の大半を決せられて居るものである。故に販賣の方客にして如何に巧妙を極むるものがある。前方其の商品の仕入れが拙劣であつた場合には、結果は決して良好でない。其の代り仕入れの巧妙に出来て居れば販賣の方客のごとき時に深く問ふ要の無き場合が多い。昔から「巧みに買はれたる品物は半ば賣れたるに同じ」といふことがいはれて居るが實はその通りで、仕入上手の商店が皆て品倒れより生ずる大なる損失を蒙つたといふ話を聞かぬ人上手の商店の營業振りは概して樂に見え、確立して居るからである。競争上既に優越の地位を占めて居るからである。併し或る商店の仕入れ上手なるは、決して一朝の所以で無、彼れはその仕入を上手にする爲めから苦心せるものである。販賣方客も左ることながら彼れはより以上の方客を商品仕入の上に通らして居る。而して絶対に秘密を守り極力活動して居る者である。其のこの秘密に行はれて居るだけ、従つて活動の形式が餘り花々しく無いだけに、吾々は商品仕入の上の仕入の苦心を察することが比較的少いけれども、其の苦心は必ずや販賣上に於けるもの以上でなければならぬ。

二 販賣の方客は無論秘密である。併しそれは永久的でない。繼續的でない。一旦行はれて了ればそれ迄である。殊に多くの方客中には前にこれを公示することが却つて便利なるものもある位だから販賣上の秘密などいふ事は殊更に苦心して守る程でもない。唯仕入上の秘密は絶対に無限である。單に之れだけで商仕入の苦心が如何に大なるものであるかを察せらるゝが、其の之れを行ふに當つて彼れは考慮を費すべき事項の多き、資料を求めべき範圍の廣きは、到底販賣の場合を以て比せられるもので無い。商店經營上、商品仕入れの業務が占める地位は、實に斯くのごときものである。日として其の研究を懈るべきでないのは勿論であるけれども、唯だ其のこの餘りに秘密に行はるべき性質を有つて居るため即ち餘りに獨立的なるため、而して又餘りにくろくどの仕事のやうに思はれる爲め、局外者の研究は割合に行はれて居らぬ様である。併し今日仕入の進歩は販賣術に對して決して劣つて居ることは考へられぬ。

三 次第斯くのごときであるから商店にあつて仕入の地位は自然高からざるを得ぬ。歐米の大商店は概して販賣係、仕入係とを合せた商品部の部長、即ち仕入係の長で總支配人の直接相談相手といふことになつて居るやうである。或は總支配人の下に別に商品部支配人(商品部長)があつて仕入係長は其の下に居ることもあるが此の場合に於ても仕入係長は直に總支配人の相談相手となるものであつて、其の權限は唯總支配人に依り大體の方針を授けらるゝの外、一切他の制肘、干渉を蒙らぬといふ程度に擴大したものである。その代り同時に其の責任も極めて重からぬものがある。即ち仕入係が負ふ責任は單に商店の仕入れに關してばかりではない。其の保存に於て陳列に於て乃至販賣の價格に對して迄、相當の責任を有たなければならぬといふことになつて居る。此の點は少し酌のやうであるけれども仕入の權限をして實際に大ならしめ、其の地位をして特別のものたらしめるためには之れも亦止むを得ないのであらう。三越あたりでも仕入係は重役殊に専務取締役に直屬して居るところから觀れば其の地位が決して輕んぜられて居らぬを察するとが出来る。同時に、専務取締役に仕入係長の相談相手であることも知り得らるゝのである。

市内家庭工業の狀態

一、状袋

現況 本品製造元は下野製紙株式會社にして去る明治四十年に創まり爾來逐年好況を呈し宮城と稱し最近著しく聲價を揚げ需要益々加はり彼の全國に名聲を博したる大阪真島製品を壓倒するの盛況を呈し全道各地に輸出せらるゝに至り。

従業者と工資 約百名にして殆んど女子なり工資貼り方千枚最高五錢最低三錢(一人一日の貼り高二千枚より五千枚位)仕上方一萬枚最高二十五錢最低十九錢なり(一人一日の仕上高一萬枚より二萬枚位)

二、團扇

本品は常市に古くより製造せられたるものなるが近來夏季各商店の進物用として需要非常に増加し冬季閑散なるとき注文を受け必要時に納むるを普通とし縣下は勿論福島、茨城、群馬等の各縣に向つて輸出し産額一ヶ年五六十萬本に達す。

従業者と工資 従業者は男十五名女約六十名にして工資は男最高七十錢最低四十五錢女最高三十錢最低十五錢なり。

三、紙折箱

現況 本品の製造に従事する職工は男十五名女五

十名許にして一ヶ年の産額五十萬個此價額約壹萬圓なり。

工賃 男は専ら裁斷方に従事し工賃は平均して一日四十錢位なり女は貼り方に従事し一日の工賃最低十錢最高三十錢にして一日一人貼り上高は八十個乃至百五十個なり。

四、木片織

現況 本品は木片織又は木糸織を稱し今を距ること二十年前に創業せられ常市の特産品なるが其原料は青森、岩手、北海道より輸入しドロブ柳と稱する木材にして之を木片とし木地の儘或は染色して横二尺一寸縦三尺二寸に織り上ぐるか其用途は婦人帽又は室内裝飾品として使用するものにして米國支那等に輸出せらる最近一ヶ年の産額約九百萬枚此價額十二萬五千圓なり。

従業者と工資 従業者は男五十名女約千名あり其内男の全部と女二百名は工場通勤にして餘は自宅に於て製織に従事するものなるが工賃は男一日八十錢(四十枚分の原料木片を製造するを普通とするを以て其工賃)織賃は一枚五錢一八一日平均四枚とし最少十錢より四十五錢を得るものあり。

五、提燈

現況 從來本品は家庭工業として常市に於てはなにか盛んなるものなりしも近來煙草工場其他種々なる工場出來るに通勤するもの多くなりしより自然本業の衰頽を來せり。

従業者と工資 當今専ら之に従事するものは甚だ少なく何れも副業の姿なるが男四十名女六十名許りあり最近一ヶ年の産額は約六萬個なり而して一人一日の産高は男女通じて平均七個銀額は最

低二十錢より五十錢を得べし。

原料及製品の時價 原料は一個分平均二錢五厘にして製品は一個平均四錢五厘なり。

六、傘

現況 本業は從來あまり振はざりしも最近縣に於て補助費を交付し組合の事業を奨励せらるゝ等の舉ありしより漸く面目を新し著しき發展を見るに至り製品は縣下は勿論奥羽各地及群馬茨城等の各縣に輸出す。

七、マニラ麻織

現況 本業の常市に開始せられしは去る明治四十四年の七八月頃を以て全四十四年未より著しき製造を見昨年春季に至りては實に斯業の全盛を極め従業者も一万余人の多きに達し一ヶ月の拂渡工賃一萬圓をこゆるの盛況を呈したり然るに本年に入り輸出先がける眞麻田の賣行不振の爲め前年に比し約三分の一の減少を見るに至れり。

工賃 隆盛を極めたる當時は織賃百々に付最高七十錢最低五十錢平均六十錢にして織高は一八一日十枚より三十枚なれば工賃少くも六錢多きは十八錢を得たりしも最近百枚の織賃最高五十五錢最低四十五錢平均五十錢に下落したれば従つて得る所の工賃も一人一日五錢より十五錢までとなるに至れり。

原料及製品の時價 原料麻は一俵(三十二貫)百二十圓乃至百六十圓なれば一貫毎に對し三圓七十五錢乃至五圓なるが製品は一貫毎に付十圓乃至十四圓なり。

市に軍隊より いくらの金が落ちる

昨四十五年度に於ける第十四師團に使用せる經費の總額は約二百四拾二万六千六百八十二圓であるが、其中宇都宮の屯任部隊に屬する分は百五十六万三千餘圓で、之を内譯にすると俸給及給料五十一万一千六百一圓餘、住宅料二万一千四百圓餘、糧秣六十二万八千五百六十六圓、内貯料十二萬二千三百五十七圓餘、被服三萬一千四百廿四圓餘、消耗品一萬四千七百四十二圓餘、雜費九千四百五十五圓餘、其他各種費用を通じて三十三萬一千四百六十圓餘である。此内市内に散佈せらるべきものが何程あるか、俸給及給料と住宅料と糧秣の内貯料は全部と見て差支なく、其他被服費中六千二百八十四圓餘、消耗品費中三千七百圓、雜費中六千三百三十四圓餘、其他の費目を通じて七萬七千七百五十四圓餘は市内に落ちるならんことであるから、之を合計すると市内に落ちる金は七十四萬八千五百六圓餘となる譯である。尙ほこれに下士以下の故郷より取り寄せ遣ふ所の金も一人平均三圓は下のまゝのことであるから、六千人に對する一ヶ月一萬八千圓で、一年を通計すると二十一萬六千圓とあるから、彼を是と合算すると九十六萬四千五百六圓となる。之れは全く米麥の購入費を見てない計算であるから、其市内納付に係る分を加へたら市に落ちる金も随分少くはない。

國鐵主要貨物

大正元年度に於ける鐵道主要貨物にして一萬噸以上に達したるは石炭の千三百二十五萬六千六百一十一噸を第一とし著しく下りて木材の二百六十五萬五千二百六十四噸第二位を占め夫より米、肥料、石材、木炭、礫石、麥、鐵及銅、煉瓦、食鹽、鮮魚、石油、鹽干魚、石灰、綿布、砂糖、綿絲、和洋紙、大豆、麥粉、和酒、煙草、陶磁器、銅、茶、生絲、摺附木、絹布の順序により合計三十一種なり

輸入肥料の増加

農商務省農務局調査によれば本年上半期に於ける肥料及其原料の輸入總額は實に三千四百〇一萬五千九百十圓にして近年未曾有の巨額なりとせし昨四十五年前半期の輸入額二千八百二十萬三千七百七十四圓に比し五百八十一萬二千三百三十六圓の増加あり今參考のため種類別に表示し前年上半期分と比較すれば次の如し。

Table with 2 columns: 肥料名 (Fertilizer Name) and 前年同上半期 (Previous Year Same Upper Half). Lists various fertilizers like 大豆 (Soybean), 石炭 (Coal), 木材 (Wood), etc.

郵貯減退の原因

郵便貯金は日露戦争後急劇の増加を呈し昨年十月頃には其額二億萬圓臺に上りしが同十一月に至り俄然從來の趨勢を一變し減少を來し昨年末には實に四百二十餘萬圓の減少を來し昨年十月より本年五月末迄僅に七ヶ月に於て約一千二百六十萬圓の減少を見るに至りたるが、この急劇の減少は實に未曾有の事に屬するを以て貯金局にては先般來其の原因の精査をなしたるが、今其原因を綜合するに左の九種ならんか。

- 一、民間貯蓄銀行及普通銀行の増加及發達
二、無償信託の他銀行の金源開闢の發達
三、各種生命保險及貯蓄組合の普及及發達
四、各種株式の類多量に發行し利益の増大
五、民間貯蓄銀行及郵便貯金に對する貯蓄獎勵其の他基金
六、官公署に於ける貯蓄獎勵
七、官公署に於ける貯蓄獎勵
八、民間貯蓄銀行及郵便貯金の利率及利子計算方法差異
九、物價騰貴及生活難

臨時總會

大正二年五月二日午後三時四十分開會全五時二十分閉會出席及議事ノ概要左ノ如シ
第一、臨時總會の開催
第二、臨時總會の開催
第三、臨時總會の開催
第四、臨時總會の開催
第五、臨時總會の開催

役員會

大正二年五月廿五日後四時開會全八時閉會出席及議事ノ概要左ノ如シ
第一、役員會の開催
第二、役員會の開催
第三、役員會の開催
第四、役員會の開催
第五、役員會の開催

麥類検査諮問と答申

栃木縣に於ては商業會議所農會等に向つて麥類の検査施行に關し諮問したるが其事項と之に對する宇都宮商業會議所の答申は左の如し。
一、縣事業トシテ麥生産輸出検査ヲ施行スルノ可否
二、検査ノ標準
三、検査ノ等級
四、手数料

Table with 2 columns: 品名 (Item Name) and 貨金 (Price). Lists various items like 小麦 (Wheat), 大麦 (Barley), etc. with their respective prices.

理由

理由 本縣ニ於ケル麥取引ノ實況ハ精麥ヲ除ク外總テ重量取引ノ慣行アリ然レトモニ於テハ生産者多クノ手數ト困難トナシ且ツ米價ノ利用シ得サル等當業者ノ不便トナシ且ツ米價ノ依リテ之ヲ容量ニ規定セントス
検査等級
生産検査ニ在リテハ合格不合格トシ輸出検査ニ在リテハ一等、二等、等外トス
手数料
輸出検査手数料一俵金壹錢五厘トス
生産検査ニ在リテハ手数料ヲ徴セス
之れに對する答申左の如し
一、縣ノ事業トシテ麥類ノ生産輸出検査ヲ施行スルハ適當ナリト認ム
二、検査ノ標準
三、検査ノ等級
四、手数料

財政問題

勝田大蔵次官談

▲税制整理 税制問題に就ては世上幾多の註文あり且當局者に於ても種々諸查に従事しつゝあるが來年度に於て實行し得べきものは目下實施準備中なる諸價引下の外に所得税の改正位に過ぎざるべし其他は到底急速に整理實行すると困難なるべし素より該問題に就ては當局に於て始終調査を怠らす者其方法を講究しつゝあれば來議に於て税制問題の解決に關する別個の提案を見るに至るやも知れず。

▲行政整理 行政整理は今回の整理を以て一段落を告げたる次第あるが尙ほ世間には第二次行政整理に向つて多大の註文を爲さんとする向があるが如きも此の如きは少しく過大の希望にあらざるなきか勿論當局は今後も可及的整理に努力する心算なれども所詮第二次整理は或人々の希望する如き著大の結果を實現すること不可能なるべし。

▲輸入米課税 米價の調節を計り多數國民の生活難を軽減せんが爲めに輸入米課税を廢止すべきは毎度聞く所なるが吾人の考ふる所に依れば輸入税を廢止したりとて所詮米價は下落せざるものと思はる之を要するに米價問題は主として現在の米穀取引所の行動に左右せらるゝものゝ如く輸入税の如何は其影響殆んどいふに足らざるものなるべし云々。

麻真田の前途

米國に於ける需要狀況

▲マニラ商人協會 は近年目覺しき發達を爲しつゝある麻真田が其原料を自國に産しながら之が製造販賣を殆んど全部日本の手に委するを遺憾とし麻真田今後の需要の模様によりては自國に於て之

を製造せんとし米本國の市況を商務省並に同品專賣業アイヌラーエンドガイ商會に照會したるに對し商務省は最近兩三年來需要激増の有様を數字を擧げて説明したり即ち麻麥稈經木各麻真田の神戸よりの輸入千九百拾一年には六十七萬五千〇七十二弗なりしもの十二年には百六拾五萬九千五百八十五弗に増加し横濱よりは千九百拾一年二千八百七十七千七百二十八弗輸入せられたるに十二年には百十六萬九千五百九十一弗に激増したるに徴するも需要増加の割合が如何に大なりしかを知るべしと回答し更にアイヌラーエンドガイ商會は報告して曰く本年夏秋婦人用帽子の過半が麻真田によりて製造せらるべきは豫想に難からざるも今後果して從來の例を追ひて。

入超三百萬圓

七月中旬の貿易

七月中旬の外國貿易は三百七十七萬一千圓にて一月以降の入超累計一億二千五百八十七萬圓なり前旬に比し増減の大勢を見るに左の如し。

輸出は三割一分減少 生絲、綿絲、羽二重、綿布、精糖、茶、燐寸、銅、樟腦等の各重要品孰れも減退したるに依る。輸入は二割四分減少 棉花、油糟の著しく減じたるも其他の重要品に在ても減退せるもの多かりしに依る。

輸出入品價目日概算

Table with columns for 七月中旬, 前年同期比, 輸出金銀價, 輸入金銀價, 輸出超過, 輸入超過. Includes sub-sections for 對朝鮮移出入額日概算 and 對南洋移出入額日概算.

對朝鮮移出入額日概算

Table with columns for 七月中旬, 前年同期比, 移出品價, 移入品價, 移出超過, 移入超過.

對南洋移出入額日概算

Table with columns for 七月中旬, 前年同期比, 移出品價, 移入品價, 移出超過, 移入超過.

東京大正博覽會

來年三月を以て開會せらるゝ大正博覽會に關し東京商業會議所會頭中野武營氏は出品勸誘方等に付左の照會書を各商業會議所に發したり。

拜啓 貴會所會頭中野武營氏は出品勸誘方等に付左の照會書を各商業會議所に發したり。...

破産法改正調査

破産法改正調査につき司法大臣は會議所其他に對し夫々諮問したるが宇都宮商業會議所に於ても本月廿九日開會したる定期總會の議に附し調査に着手したれば來る九月中に意見を確定し答申すべしと。

仕切書の意義

仕切書の意義に關し該官吏と當業者との間に解釋を異にし衝突絶へず是に於て商業會議所等に於ては之れが絶對的廢税を主張する次第なるが今回某印紙稅法違反事件に對し宇都宮區裁判所は仕切書なるものを左の如く解釋判決せり。

印紙稅法第四條に所謂賣買仕切書とは或る標準價格を以て商品の買賣を爲したる場合に於て後に其確定價格を表示して決算を證明すべき書面なり。故に此解釋よりすれば單純なる計算書は賣買仕切書にあらざるが故に印紙稅を納附せざるも印紙稅法違反にあらざるなり。

米價の騰貴と農家の購買力

昨年より本年五月頃迄の市況

一、清酒 米價騰貴の爲め農家の購買力増加せんと思へしに米價に連れ酒價騰貴したる爲めか更に購買力増進の傾向を見ず。

二、製麵

米價騰貴以來非常なる盛況を呈し從來市内には六七戸の製造業者あるに過ぎざりしが漸次増加して小規模なれども現今十七戸の多きに達せり尙二三戸増加の模様あり。

三、小麥粉

本品は從來製造過剩製品停滯の姿なりしが米價騰貴以來製麵業の隆盛を來し且つ奥州地方其他小農勞働者の需要を喚起し實に二割以上の盛況を呈したり。

四、五十集

本品は米價騰貴以來農家に於ける需要は多少増加したる傾きあれど著しき買購力増進の傾向を見ず。

五、肥料

施肥の程度は年々増加の傾きあれど殊に米價騰貴せるに肥料の價格は反對に低廉なれば一層需要を増進して現金買從前よりも幾分増加したる傾きありされど著しく舊價を脱する迄には至らず。

六、呉服太物

本品は米價騰貴のため農家の收益増加したるに相違なしと雖も之れが爲め購買力の増進したるを認めざりし折柄不幸御諒間に遭遇し夏物需要季節は尤も著しき影響を受け甚だ不振の状態なりしが米價尙高値を持続したりしにより冬物需要季節に至り漸次恢復し舊節季の候には多少活氣を帯びたり。

七、和洋小間物

本品は米價騰貴の爲め農家向需要増加せしと想はれしに御大喪の爲め祭典其他諸事繰延の結果大なる影響を蒙り其後多少の恢復を見ざりしにあらねど商勢甚だ振ふに至らず不況の姿にあり然れども一般需要者の趨勢は奢侈に傾きつゝあり。

て芳香佳味且つ
廉價なり江湖の
諸君奮て御試用
あらん事を乞ふ



菊の友は原料を
精撰し學理を應
用し最も斬新な
醸造方法にし



委託販賣、貨物貸付金

宇都宮市川向町

下野倉庫株式會社

電話 一四八番

貨物、保管、荷爲替取組

關澤商店陳列館

- ▲宇都宮市の中央二荒山神社の坂下ゆへ土産物御求には至極御便利であり升
- ▲獨立の勸工場にて市中無類第一層の廉價正札附に致してあり升
- ▲流行品は他店に魁くるは申す迄もな
- ▲花客様にて御承知の筈あり升
- ▲品が善くて直が安く有る品は取揃てあります



宇都宮市神明下
關澤商店陳列館
主館 平澤敬治 (七ケ)

和洋御料理及天麩羅原料
は元濱方と特約日々新鮮
のものを選み直輸入風味
と衛生を最も第一の特
迅速は最も第一の特



番七百六 番二百二 話電

牛肉の原料は有名なる神
戸米澤豚肉は海外より特
種の者を選み品質精撰
格低廉衛生經濟富強兵
に欠る日常食品の親玉

寶積寺銀行宇都宮支店
諸貸附割引爲替代金取立確實ヲ旨トシ精々御便利ニ取扱可申候 電話三五番 電略(ホウ)

本店 宇都宮市宿郷町三番地 電話二〇七番

支店 東京府北千住中組五八五番地 電話下谷一八八三番

登録商標 下野製紙株式會社

大坂硫黄株式會社製品特約賣販 各種取揃へ之有候ニ付御用命奉願上候 見本ハ御一報次第早速御送り可申上候 宇都宮市上河原町 手塚 豊吉 電話二二三一(電略)又ハ一(電略)

營 業 種 目

藥 品 賣 藥 醫 療 器 械
理 化 學 器 械
寫 真 器 械 附 屬 一 式
コ ン デ ン ス ミ ル ク 特 約 店

宇 都 宮 市 馬 場 町
木 村 作 次 郎
電 話 一 七 七 番
日 光 中 鉢 石 町
木 村 支 店
電 話 百 十 一 番

● 海 陸 產 肥 料 各 種
● 入 山 石 炭 各 驛 一 手 販 賣
● 好 間 石 炭 各 驛 一 手 販 賣
● コ ー ク ス 、 コ ー ル タ ー ル (宇 都 宮 瓦 斯 會 社 產 出) 特 約 販 賣

宇 都 宮 市 石 町
針 屋
村 上 濱 吉
電 話 三 三 三 番

和 紙 ハ 土 佐 、 駿 河 、 石 見 、 美 作 等 產 紙 モ ノ ハ 悉 ク 全 地 直 輸 入 ニ 付 中 介 地 タ ル 東 京 若 ク ハ 大 坂 ノ 手 ア カ ラ
ス 故 ニ 兩 都 ノ 相 場 ニ 相 勉 メ 可 申 候 。 洋 紙 モ 舶 來 紙 ヲ 始 メ 凡 地 各 製 造 會 社 ノ 撰 定 ニ 係 ル モ ノ 一 切 取 揃 有 之
候 ニ 付 和 洋 共 出 精 販 賣 可 仕 候 間 御 用 命 願 上 奉 候

和 紙 卸 高 上 油 産 紙 店
宇 都 宮 市 日 野 町
目 録 出 産 部
電 話 四 〇 〇 番

木 材 諸 建 築 供 給 受 負
諸 木 材 廉 價 販 賣
戶 障 子
諸 建 築 工 事 請 負 業

宇 都 宮 市 日 野 町
宇 都 賀 屋 本 林 店
篠 崎 安 平
電 話 一 三 八 番

業 務 擴 張 ノ 爲 メ 從 來 ノ 建 具 類 賣 場 狹 隘 ヲ 感 シ 肴 町 通 ニ 移 轉 仕 候 條
陸 續 御 用 命 奉 願 候

電 力 應 用

活 版 石 版 寫 真 版
印 刷 所
宇 都 宮 市 警 察 前 角
三 共 社
電 話 三 百 六 十 五 番

肥 料 藍 麻 苧 真 繩

宇 都 宮 市 本 郷 町 廿 八 番 地
商 號 久 喜 屋
福 田 恒 吉
電 話 三 〇 六 番
電 略 シ キ ヲ 又 ハ キ